

平成22年度決算 全会計とも認定 全賛成全員で

不況の影響により

個人町民税大幅減

地方交付税の増により黒字決算維持

第3回定例会は、9月6日から16日までの会期で開かれ、町長から19議案（決算認定・条例改正・補正予算など）が提案されました。

平成22年度一般会計ほか7会計決算については、決算特別委員会で審査し、適正に執行されたと認定しました。ほかの議案についても慎重に審議し、すべて原案のとおり可決しました。

一般質問は7議員が行い、さまざまな角度から町の姿勢をたずねました。

最終日には、追加提案された工事請負契約締結議案を可決し、11日間の会期を閉じました。

平成22年度 一般会計決算の特徴

歳入・歳出ともに前年度の伸び率を下回る

歳出…8.3%減

中学生までの医療費無料化や子ども手当の創設など、民生費が増加しました。反面、教育費は玉村中学校体育館・プールの建設工事や玉村小学校体育館耐震補強工事が終了したため、22.5%減少。また総務費も、定額給付金の支給などがなくなったため、大きく減少しました。

歳入…6.8%減

企業の業績回復により法人町民税が増加したものの、個人所得の落ち込みから個人町民税は減少し、町税全体では1.1%の減少となりました。しかし、前年度の法人町民税の落ち込みの清算により、地方交付税が大幅に増加しました。

◆経常収支比率

84.7%（昨年度より9.2ポイント下降し、大幅に改善）

比率が高いほど臨時的な経費に使用できる一般財源が少なく、財政構造が弾力性を失っていることを示す

◆実質収支

5億8499万円の黒字

うち3億円を財政調整基金へ積立て

◆財政力指数

0.83（前年度より、0.02ポイント下降）

◆積立金現在高

39億7540万円

2年連続で減少していたが、今年度は1億2292万円増加

◆地方債現在高

94億5394万円（前年度に引き続き増加）

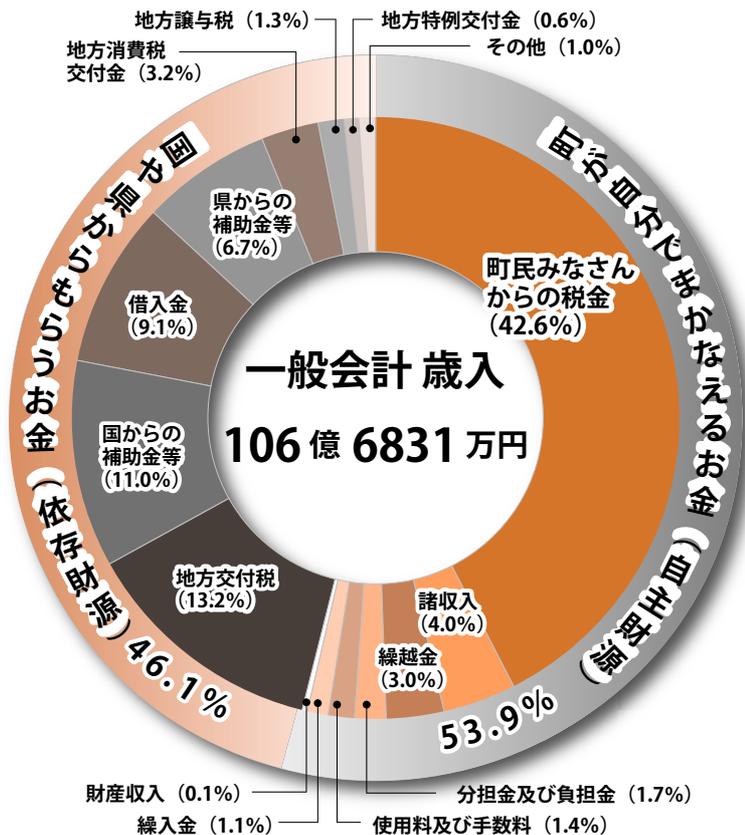
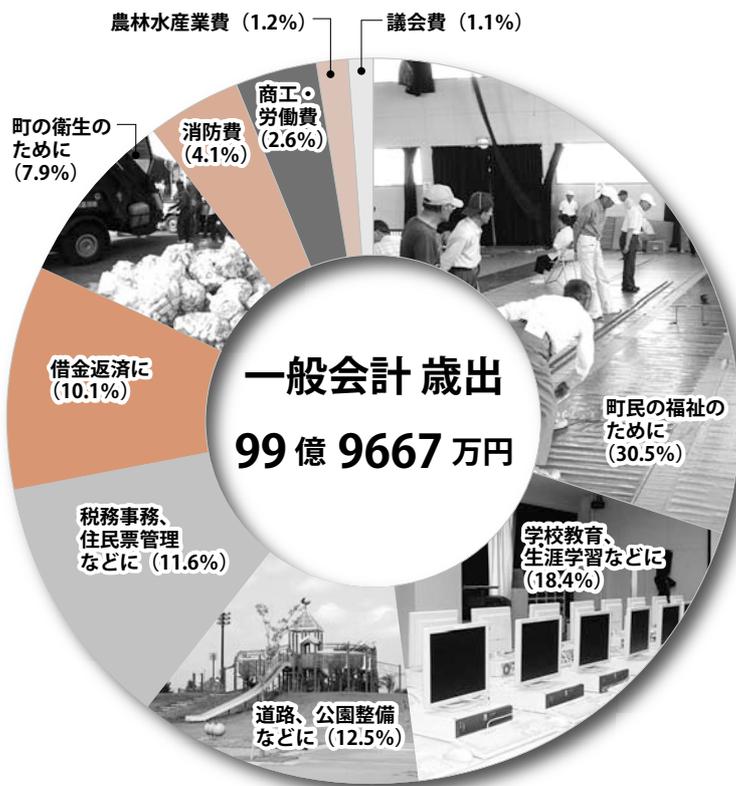
決算内容をチェック！

決算特別委員会での質疑は

4.5ページに掲載



こんな議案を審議しました



総括質疑

Q 経常収支比率が改善しているが、地方交付税と臨時財政対策債などの依存財源によるものであり、手放しで喜べない。一般会計決算について、町長はどのような評価をしているか。

A 決して安心できる状況ではないが、平成22年度までに小中学校の耐震補強工事など投資的な事業を行ってきた。厳しい経済情勢の中でこのような事業ができたことは、当町の財政に力があつたものと思っている。今後も無駄を省き、住民福祉のために財政の安定化に努めたい。

Q 平成22年度決算は、実質収支などすべての面において黒字となっている。その要因は。

A 歳入については、平成21年度の法人町民税減収を補てんするため、地方交付税が伸びたことによるものである。歳出については、事業を行う際の入札差金や職員の努力によるものと考えている。

《一般会計・特別会計》 【歳入】 【歳出】

一般会計	106億6831万円	99億9667万円
国民健康保険 特別会計	34億3480万円	31億2601万円
老人保健 特別会計	356万円	356万円
後期高齢者医療 特別会計	1億9386万円	1億9168万円
介護保険 特別会計	14億5509万円	14億2428万円
介護予防サービス事業 特別会計	1008万円	1008万円
下水道事業 特別会計	13億 52万円	12億5993万円
増減比率(前年度比)	▲2.7%	▲3.7%

《事業会計》 【収入】 【支出】

水 道 事業会計	6億1626万円	7億5417万円
----------	----------	----------

健全化判断比率	平成20年度	平成21年度	平成22年度	早期健全化基準
◆実質赤字比率 自治体の一般会計の赤字の程度	黒字	黒字	黒字	14.08%
◆連結実質赤字比率 公営事業も含めた赤字の程度	黒字	黒字	黒字	19.08%
◆実質公債費比率 実質的な借金の返済額の割合	7.6%	7.0%	6.4%	25.00%
◆将来負担比率 将来支払うことになる負担	黒字	黒字	黒字	350.00%

早期健全化基準を下回っており、健全であると判断できません